

日本小児血液・がん学会 第11回理事会議事録

日 時：平成25年11月8日（金） 14：00～18：00
場 所：AP品川 Cルーム

出席者：石井榮一（理事長）

越永従道（副理事長）、足立壮一、池田 均、今泉益栄、小原 明、工藤寿子、黒岩 実、
嶋 緑倫、滝 智彦、中澤温子、野崎美和子、細井 創、真部 淳、米田光宏（以上理事）

伊藤悦朗、福澤正洋（以上監事）

田口智章（第55回学術集会会長）

小田 慈（第56回学術集会会長）

杉田完爾（第57回学術集会会長）

水谷修紀（オブザーバー）

欠席者：菊地 陽（理事）

原 純一（オブザーバー）

司会：越永副理事長

I. 議事録署名人の選出

黒岩実理事、小原明理事が選任された。

II. 前回理事会議事録（案）の確認

一部修正の上、承認された。（修正後の議事録は後日配布予定）

III. 審議事項

1. 第58回学術集会会長について

黒田達夫会員（慶應義塾大学小児外科）より立候補があったことが報告され、満場一致で承認された。
次回総会で報告を行う。

2. 平成24年度決算報告（池田委員長／伊藤監事・福澤監事）

池田財務委員会委員長より収支計算書を基に報告がなされた。

- ・旅費交通費、会議費等は、従来事業費に計上されていたが、疾患委員会および専門医制度委員会以外の経費については本年度より管理費に計上した。
- ・従来、請求書発行が年1回しか行われなかったため、会費納入率が7割程度にとどまっていた。今後は年3回請求書が発行されるため、会費納入率の上昇に期待が持てる。

続いて、福澤監事より10月30日に監査を行い特に問題がなかったことが報告されたが、監事として以下の意見が述べられた。

- ・抄録集については、現在CD配布している学会の例もあり、今後支出削減の面から検討してほしい。
- ・会議費、交通費について、特にプログラム委員会の支出が多いため、委員の人数を縮小するなど、簡素化を志向した方が良い。全体として、会議費・交通費を減らすよう努力が必要ではないか。

その他、以下の意見が述べられた。

- ・来年度より公認会計士の監査を受けた方が良いのではないかと
→今後検討を行っていくことが確認された。
- ・アジア交流基金は特定資産のため、基金化する必要があるのではないかと

→基金を受け入れた当初に処理すべきであった。今後基金化をするのであれば、処理を行った年に支出処理を行う必要があり、その年度の支出が増える。今後どのように対応するか検討していくこととなった。

3.平成 25 年度収支予算案（池田委員長）

【収入】

- ・一般会員ならびに評議員の納入率を 90%とし、賛助会員も現在の 6 社から 10 社とした。
- ・専門医試験の認定料は合格率 80%程度と仮定して試算した。

【支出】

- ・連携事業費（アジア交流基金）については、本年度学術集会開催校より既に連絡があったため、それにしがたい計上した。
- ・将来的には学会誌についてオンラインジャーナルを検討する。

収支予算については特に問題がなく承認された。

4.平成 24 年度事業報告ならびに平成 25 年度事業報告案

石井理事長より報告され、承認された。

5.その他

○ がん政策研究事業について

水谷先生より厚労省科学研究費公募について説明があり、臨床研究は JCCG で応募する予定だが、以下の分野については、学会が取りまとめ役となつてはどうか、との提案があった。

（研究分野 1）「小児がん経験者の自立に向けた精神心理的・社会的支援に関する研究」（研究分野 2）「小児がん拠点病院を軸とした小児がん医療提供体制のあり方に関する研究」（研究分野 3）「小児がん経験者が安心して暮らせるための、地域における患者とその家族の不安や治療による合併症、二次がんなどに対応できる長期フォローアップ体制の確立や社会環境整備のあり方に関する研究」「小児がんや遺伝性腫瘍など、希少性の高いがんに関する情報集積に関する研究」

本件については、学会の中でワーキンググループを組織して検討を行うとともに、会員に周知すべくホームページ掲載、メール配信などの広報を行うこととなった。

○ 理事長・理事・監事・委員選挙について

事務局より候補者一覧が配布され、了承された。

なお、定款施行細則の選挙に関する条文の一部に修正の必要があることが報告され、今後規約委員会で検討することとなった。

IV.報告事項

1. 庶務報告（越永副理事長）

越永副理事長より会員動向について報告された。

- ・2 年未納の会員は会員資格を喪失する。現在は未納分を支払えば遡って会員資格は復活するが、今後専門医の資格要件にもかかわってくるため、復活可能なのは、未納開始年から 5 年以内とすることとなった。
- ・来年の評議員会の際には除籍者リストを出すこととなった。
- ・新入会員について承認された。

2.常設委員会報告

1)規約委員会（野崎委員長）

野崎委員長より定款、定款施行細則の修正について報告された。

【定款】

- ・事務局移転に伴い定款の住所を変更する。

【定款施行細則】

- ・諮問委員会に臨床研究推進委員会を追加することとなった。

- ・「監事に議決権はないものとする」と「監事に選挙権がない」との記載があるが、監事は評議員なので、権利喪失は良くないのではないかとこの意見が述べられ、この条文は削除することとなった。
- ・第16条の学会活動停止処分には「医師資格の一時停止処分を受けた時」との記載があるが、医師以外の会員についても規定すべきとの提案があり、「医師資格その他の一時停止処分を受けた時」との旨変更することとなった。
- ・評議員の年会費については寄付金ではなく、施行細則に規定すべきと意見が述べられたが、評議員会費は何に使われるのかと質問されることが懸念される。
- ・監事の定数について定款と施行細則に齟齬があるため、「総会に推薦する監事は2名とし」と加筆することとなった。

以上の点につき、今後規約委員会で検討の上修正を行い、次回理事会にて再度提案を行うことが確認された。

また、今後は、立候補者数が定数に満たない領域があった場合、事前に理事長へ報告し、対応を検討することとなった。

2)学会誌編集委員会（嶋委員長）

嶋委員長より報告された。

- ・現在50巻4号の準備を行っている。
- ・投稿論文数について号を追うごとに減少していることが懸念される。
- ・「編集者への手紙」の投稿規程追加については次号掲載を行う。

3)学術・教育委員会（細井委員長）

細井委員長より報告された。

- ・学術賞については、今後は広報を積極的に行うことや掘り起こしの問題等、現委員会で出された意見を次期委員会に申し送ることとする。
- ・大谷賞は来年より小児血液・がん学会雑誌に掲載されている原著論文全てを対象とする。
- ・大谷賞について規約が特にないので、次期委員会に検討いただく。

なお、白血病研究基金学会推薦枠ならびにレジェンド賞について今後学術・教育委員会にて審査を行っていただきたいと水谷先生より意見が出され、今後同委員会にて検討していくこととなった。

また、今後、賞の広報の意味も含めて受賞者の研究内容をポスター発表してもらうこととなった。

4)保険診療委員会（黒岩委員長）

黒岩委員長より報告された。

- ・保険診療委員会を10月6日に開催した。
- ・内保連の年会費が来年度より値上がることになった。
- ・保険診療のアンケートについて学術集会の評議員会場で回収を行う。

5)専門医制度委員会（米田副委員長）

米田副委員長より報告された。

- ・専門医の登録は1次登録を行い、申請者数把握をし、郵送・出願にて2次登録を行う。
- ・試験問題のブラッシュアップを12月13日14日に合宿にて行う。
- ・来年4月1日から30日に小児がん認定外科医・認定施設・研修会認定の受付を行う。
- ・委員の交代・継続を念頭に3名の新規委員候補者を選定し、新年度を迎えるまでオブザーバーという形で委員会に参加してもらいたい。

→原案通り承認された。

6)国際委員会（真部委員長）

真部委員長より報告された。

- ・SIOP、日本血液学会、がん治療学会に今後学会として組織的に関わっていく必要がある。

- ・ Tomodachi project について次期募集を行う。

7)理事・評議員資格審査委員会（今泉委員長）

今泉委員長より報告された。

- ・ 9月に募集を行っていた評議員について19名より申請があり、審査の結果、いずれも適格と判断した。評議員会ならびに総会にて報告を行う。

- ・ 本年の選挙投票要領について報告された。

8)診療ガイドライン委員会（米田委員長）

米田委員長より報告された。

- ・ 執筆者の確定について11月中に行う。

- ・ 診療ガイドラインがホームページに掲載されている。

- ・ がん治療学会のホームページには小児白血病リンパ腫について掲載済みだが、小児がん診療ガイドラインは未掲載のため現在依頼を行っている。

- ・ 厚生労働科学研究補助金がん臨床研究事業にて今後ガイドラインの評価を小児血液・がん暫定指導医・小児がん認定外科医ならびに患者家族にも評価を依頼する予定である。

9)臨床研究審査委員会（足立委員長）

足立委員長より資料の通り審査を行っていることが報告された。

3.理事長諮問委員会報告

1)緩和ケア等事業委員会（越永委員長・米田委員）

越永委員長より報告された。

- ・ 小児脳腫瘍の診断治療の研修は2014年2月2日大阪会場。2014年2月23日東京会場で開催する。

- ・ 放射線学会より委員会外部委員として小児外科の北川博昭先生が推薦された。

なお、小児脳腫瘍診断治療の研修会には必ず緩和ケア等事業委員会委員も出席すべきとの意見があり、大阪は米田委員、東京は越永委員長が参加することとなった。

・

4.疾患委員会報告

1)血小板委員会（今泉委員長）

今泉委員長より報告された。

- ・ ITP疫学観察研究アンケートを行った。中間報告として小児血液・がん学会ならびに小児科学会にて発表を行う。

- ・ 学会ホームページに「先天性血小板減少・異常症の診断アルゴリズム」を掲載した。

- ・ 患者用ITPパンフレットを販売した。

2)止血・血栓委員会（嶋委員長）

- ・ 定期補充療法研究が進行中である。

- ・ カテーテル管理ガイドラインについては間もなく完成するが、その後の進め方について確認をしたい。

→学会発行のガイドラインには支持療法分野にカテーテルについて掲載する予定のため組み込みたいとの意見が述べられた。ただし、本件は血友病におけるカテーテルのため支持療法分野にはそぐわないとの意見もあり、たがいに齟齬のないよう進めていくことが確認された。

3)白血病・リンパ腫委員会（滝担当理事）

- ・ 日本が正式にCLICのメンバーとなるべく事前協議が進んでいたが、年次総会開催の数日前に主催者が急逝され、総会当日は具体的な参加協議は進まなかった。

- ・ 今後本格的にCLICに参加することになる前提として、日本の貢献が求められるが、具体的な案としては以下がある。

- 1.小児血液がん学会の白血病の登録診断データの提供（地理的な病型分布の違いの解析）

2.日本での電磁波のケースコントロール研究データの再解析

3.日本での GWAS 研究

・福島原発事故の影響調査に関しては、白血病リンパ腫だけでなく、疾患登録委員会を含めた形での学会の関与が必要と思われる。

4) 造血細胞移植委員会（足立担当理事）

足立担当理事より報告された。

・ドナーの安全確認、TRUMP への小児科領域独自データの反映を行っている。

・副腎白質ジストロフィーについての研究協力依頼が東京大学辻省次教授、同血液内科黒川峰夫教授の連名で協力依頼があった。協力内容としては本学会として蓄積している施設名を公開すべきではないとの意見もあり、再度詳細な内容を提出していただくこととなった。

5.学術集会準備報告

1)第 55 回日本小児血液・がん学会（田口会長）

田口会長より報告された。

・ Meet the Expert の申し込みが少ないため、若手の先生に声掛けをしてほしい。

・委員会開催について再度確認をしてほしい。

2)第 56 回日本小児血液・がん学会（小田次期会長）

小田次期会長より問題なく準備が進んでいる旨報告された。

3)第 57 回日本小児血液・がん学会（杉田次々期会長）

杉田次々期会長より報告された。

・11月27日-29日に開催予定である。

・前日の26日に評議員会と会費制の会長晩餐会を開催予定である。

6.その他

○ がんの子どもを守る会の近藤副理事長より、学会との連名で厚労省へ難病対策に関する要望書を提出するにあたり、内容について説明があった。特に問題がないことが確認され承認された。

○ 脳腫瘍学会よりガイドライン作成について委員選出依頼があり、原純一先生（大阪市立医療センター）および柳澤隆昭先生（埼玉医科大学国際医療センター）の2名を本会として推薦することとなった。また、脳腫瘍学会事務局長の西川亮先生を学術集会前日に行われる理事会よりオブザーバーとして招聘することとなった。

○ アフラック社が小児がん経験者30名に対して奨学金制度を開始することが理事長より報告された。

○ 小児慢性疾患について

新聞記事作成依頼については米田理事が人選を行い、対応することとなった。

以上